

座ぶとん会議

今回は「長刀組」の皆さんと「伝統」や「まちづくり」について語り合いました。春の訪れを告げる「曳山まつり」は、長浜で最も重要なまつりのひとつで、地域の皆さんによって伝承されてきました。

伝統の継承とまちづくり

市では、風通しのよい開かれた市政を実現するために、市内の自治会をはじめ、自主的な地域活動を行っているグループ等を対象に、市長が市民の皆さんの生の声を聞く「座ぶとん会議」を開催しています。



▲懇談を終えて皆さんと

「長刀組」の皆さんから、「祭」と「祭礼」の違いについて、紹介がありました。「祭」というのはあくまでも儀礼であり、祭事を営む人とそれを司る人（神職や僧侶）だけで営まれる当事者本位のもの。一方、「祭礼」は当事者とは直接かかわりのない人や見物人が関与するもので、市民や観光客の皆さんが見て楽しんでいられるのは「祭礼」の部分だということでした。

毎年4月15日の朝、「祭」の部分を司る「長刀組」の「太刀渡り」が行われ、その後「長刀組」の中老による「翁招き」という儀式を終えて、はじめて子ども歌舞伎を奉納することができま

す。このことは、あまり広く知られていないかもしれませんが、まつりのルーツや山組の歴史を若い世代に引き継ぐことが、自分たちの使命だと「長刀組」の幹部から話がありました。そんな皆さんにとって気がかりなのは、中心市街地に空き家

肺炎球菌ワクチン予防接種費用の一部を助成します

滋賀県後期高齢者医療広域連合では、高齢者の健康の保持・増進を図るため、肺炎球菌ワクチン予防接種費用の一部助成を行っています。



- 【対象者】「滋賀県後期高齢者医療被保険者証」をお持ちの人で、医師が接種を認める人
- 【接種場所】滋賀県内の指定医療機関での個別接種
- 【助成金額】3,000円（接種費用から、助成金額を差し引いた額が自己負担となります）
- 【助成方法】市への申込みは不要です。かかりつけの医療機関に相談ください。
- 【その他】ワクチンは、接種後5年間有効とされています。毎年受けるものではありません。

肺炎は、日本人の死因第4位です。肺炎が原因で亡くなる人の約95%は、65歳以上の高齢者です。この肺炎のうち、およそ4分の1が肺炎球菌に起因しており、重症化や死亡を防ぐには、ワクチン接種が有効とされています。

問 保険医療課 (☎65-6527) 滋賀県後期高齢者医療広域連合 (☎077-522-3013)

布団丸洗いサービスの受付を開始します

在宅で生活しているしょうがいのある人や、65歳以上で介護を受けている人が、日常的に使用する布団を丸洗いするサービスを実施します。

しょうがいのある人

- 【サービスが受けられる人】
次の条件のすべてに該当することが必要です。
- ①平成24年5月1日から平成24年10月31日の間に3か月以上在宅生活をしている人
 - ②11月1日現在、下記のいずれかの手帳を所持している人で、しょうがいのある人のみの世帯またはそのしょうがいのある人と同居している人すべてが65歳以上の世帯の人
- 身体障害者手帳（肢体不自由、視覚しょうがい、内部しょうがい）1級、2級
 - 療育手帳A1、A2
 - 精神障害者保健福祉手帳1級、2級

申 しょうがい福祉課〈東別館1階〉
(☎65-6518)
北部振興局・各支所福祉生活課

65歳以上の人

- 【サービスが受けられる人】
次の条件のすべてに該当することが必要です。
- ①平成24年5月1日から平成24年10月31日の間に3か月以上在宅生活をしている人
 - ②11月1日現在、ひとり暮らしまたは高齢者のみの世帯等で介護保険要介護3～5の認定を受けているか、しょうがい高齢者の日常生活自立度が寝たきり（ランクBおよびC）の人で、所得税非課税または生活保護を受けている世帯の人

申 高齢福祉介護課〈東別館1階〉
(☎65-7789)
北部振興局・各支所福祉生活課

しょうがいのある人、65歳以上の人とともに

【受付期間】12月3日(月)～17日(月) ※土日を除く

【負担額】利用料の1割（代替布団希望750円、希望なし550円）

市長コラム

至誠通天

藤井 勇治

※至誠通天 誠を尽くせば天が味方してくれること



東京での「外国人集住都市会議」・「全国市長会」に出席して

今年も残すところ1か月となりました。月日の経つ早さに、本当に驚きます。一昨年の東日本大震災から1年9か月が経過しましたが、まだ大勢の皆さんが避難生活をされておられ一日も早い復旧が必要です。さて、私は先月、東京で開催された二つの重要な会議に出席しました。

一つは「外国人集住都市会議」です。この会議には、ニューカマーと呼ばれる南米日系人を中心に外国人住民が多数居住する長浜市など全国の29都市の行政や、地域の国際交流協会が参加し、日本人と外国人が共に地域で安心して暮らせる多文化共生社会をめざし、情報交換や調査研究、国や県、経済界への提言などの活動をしています。大切な事はグローバル化が進む中、日本人と外国人住民が互いの文化や価値観に対する理解を相互に深め、権利の尊重と義

務の遂行を基本として多文化共生社会を実現していく事です。来年度から本市がこの会議の代表になり、私が「座長」を務めることになりました。大きな責任を負いますが、積極的に取り組みます。二つ目は「全国市長会・経済委員会の説明と協議の中で、特に懸念したのは、日本の食物自給率がカロリーベースで39%、生産額ベースでは66%となっていることです。また、この20年間で農業生産額は4分の3に、農業所得は半減しました。全国の農業従事者は205万人に減り、平均年齢は66歳です。私は、農業は国の「礎」との信念です。だからこそ、採算の取れる農業であること、そして後継者や担い手が育つ環境を確保することが大変重要です。今こそ国民の生命と健康を守り、美しい国土を保全する農業政策の確立が必要であると痛感しました。

外国人集住都市会議 (於 砂防会館<東京都千代田区>)

